

令和3年度 日本遺産の認定にともなう説明会 会議録【羽尾第5区公民館】

1. 開催期日・・・令和3年7月15日（木）午後2時～
2. 開催場所・・・羽尾第5区公民館
3. 出席者・・・市日本遺産推進室職員、市歴史文化財センター職員、市観光交流課職員、(株)ふろしきや
4. 説明会参加者・・・18名
5. 会議要旨

○千曲市からの説明

- ・日本遺産「月の都 千曲」の認定について (歴史文化財センター)
- ・日本遺産「月の都 千曲」地域活性化事業について (日本遺産推進室)
- ・姨捨の棚田整備計画の作成について (歴史文化財センター)

○質疑応答

ご意見等	回答等
<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産推進事業の国等からの助成金はどのような事業に使われるのか。 ・日本遺産に認定されたのは棚田の保全をしてきた結果である。保全のための事業費が入っていない。また、周りの人からは、保全団体に対し「助成してもらっていいな」と言われる。このことに対しての市の考え方は。 ・棚田保全のための経費の補助を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国からの補助金があります。事業費として大まかではありますが、人材育成事業としてガイド養成講座に200,000円、普及活動としてモニターツアーに500,000円、のぼり旗等の啓発物品に500,000円、情報発信事業としてパンフレット作製1,000,000円、日本遺産センター改修等に30,000,000円であり、補助金は23,000,000円です。 ・日本遺産事業では、保全事業は補助対象外でありますので、市の農業施策となり、農林課の対応となります。保全団体への助成についての誤ったご意見については、払拭するよう啓発してまいります。 ・農林課にお伝えします。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県道のビュースポットはどうなった。 ・ 棚田内で救急車を呼ぶようなけがをされた人がいるが、患者さんの場所が棚田内であったため、特定できず救急車がいかれなかったことがあった。今後このようなことがないような対応をしてもらいたい。 ・ 田んぼ等から道路に木や草が生い茂っている。気づいた時に刈っているが、5年・10年先にはやれていないと思うが、このような状態の対応は。 ・ 生い茂っている状況の場合は市のどこに話をすればいいのか ・ 棚田整備計画にある農道の整備については、どこが対応するのか。 ・ 棚田については、教育委員会・農林課・建設課・観交課など多岐にわたっている。日本遺産推進室ができたことにより、今までの縦割り行政ではなくスムーズな事業推進を ・ 棚田の整備については、地元との協議が一番大事であると思いますが、 ・ 日本遺産の構成文化財の「遥拝所」や姨捨孝子観音の情報発信を。 ・ 日本遺産については、観光資源として活用していくことが理解できたが、整備計画策定がまだ始まったばかりである。観光誘客するためにも地元としても協力するが、計画策定あたっては全体プランや年次計画を示してもらいたい。いつごろまでに計画を策定するのか。 ・ 現状での水路などの環境整備が必要なところがある。対応を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備委員会から今年3月に千曲建設事務所に対し、要望書を提出。県で最善を尽くしているところでもあります。 ・ 初めて聞いたお話ではありますが、消防署と関係機関と調整していきます。 ・ 所有者が管理しなければならないと民法では定められている。ただし、所有者がわからない等である場合は、道路管理者が最終手段として行うが、市等が行う場合では手続きが必要である。 ・ 農地であれば、農業委員会に相談をしてください。 ・ 整備計画であるため、歴史文化財センターにまずは連絡ください。 ・ 日本遺産に認定され、日本遺産推進室ができたことから窓口の一本化をしました。推進室は司令塔となって、関係課と連携して事業を推進してまいります。 ・ 棚田整備計画の作成につきましては、地元のご意見を聞きながら作成してまいりますので、ご協力を賜りますようお願いいたします。 ・ できることから情報発信をしてまいります。 ・ 素案を作成しましたので、地元と協議しながら今年度中に策定していきたい。 ・ できるところから対処していきます。
--	---

<ul style="list-style-type: none">・他の日本遺産認定の場所には案内看板があった。リピーターになるような整備が必要ではないか。・整備計画については、検討を進めているとのことですが、地元の方の意見をどこまで吸い上げているのか。・耕作の担い手を育てることが重要、5年後、10年後、20年後のビジョンを教えてください。・農林課でとった営農に関するアンケートは、その後どうなったか。・せっかくU字溝の設置工事をして、すぐに動いて漏水してしまう。漏水をしっかりと防ぐように工事を。	<ul style="list-style-type: none">・皆様のご意見をお聞きしながら、案内版の整備など検討してまいりたいと思います。・整備計画を作るにあたって、何度か地元の方々からご意見いただいております、それをまとめて、どこをどう整備していくかということを具体的に考えていく段階ですが、またご意見等あればお聞かせください。・担い手確保が一番重要で難しい課題。現在は、所有者の皆さん、保全団体の皆さん、それぞれで耕作されていますが、耕作できないとなったら、担い手の組織を立ち上げるなど、10年後も今の棚田の景色を変わずに維持できる方策を考えていかなければならない。・アンケートの結果は、整備計画の作成の際の参考にさせていただきます。・今後、設計のほうに反映するようにいたします。
---	--